

	自己評価			取組の状況	達成状況	学校関係者評価 学校関係者評価者による意見	次年度の方向(改善計画等)
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準				
①組織的な学校運営	(組織的・機能的な学校運営) 校長の学校経営構想のもとで、各主任を核とした組織的・機能的な学校運営を行う。	【努力指標】 運営委員会を定期的に開催し、諸課題の解決に努める。	運営委員会を A: 定期的に有効に開催できた B: 定期的に開催できた C: 開催できないこともあった D: 十分に開催できなかった	PDCAにより、内容と方法の効率的運用を検討。職員会の事前会議から学校運営の協議会となり、改善出来た。	A	運営委員会はPDCAを利用し、機能的に運営している。今後も、課題の解決に向け、教職員が一丸となって一層の努力を重ねてほしい。	課題は学校運営参画意識の高揚があげられる。
	(学校経営構想の具現化) 各主任を中心に、校務分掌の年間計画を作成し実施する。	【成果指標】 児童の生きた力となるように、各部でそれぞれの活動を協議し実践する。	各部の年間計画を A: 十分に実践できた B: 実践できた C: あまりできなかった D: できなかった	各活動実施後、各部または全職員で実施の検証が行われ、次年度の計画に生かすよう、協議が行われていた。	B		課題は各活動のめあてを共有化することにある。
②確かな学力の育成	(基礎・基本の学力の定着) 読み・書き・計算の基本をしっかり定着させ、わかる授業の実践に努める。	【成果指標】 国語科・算数科の基礎・基本が8割以上できる子が80%を超えるようにする。	基礎・基本の定着度が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	朝自習(かすかみタイム)や家庭学習により、漢字や計算の力がついてきた。一定の成果が見られた。	B	言語活動をはじめとする学力の定着と向上は、家庭・地域・学校の三者が共に手を取り合いながら進めていってほしい。	・学力の定着は継続と蓄積が重要であるため、「基本的生活の向上」「家庭学習の習慣化」の項目と合わせ、取り組んでいきたい。
	(考える力の育成) 「自分の考えを持つ」ことのできる子の育成をめざして授業実践に努める。	【努力指標】 導入と伝え合う場面の工夫を学期に行う。	導入と伝え合う場面の工夫を学期に行う。 A: 5回以上 B: 3回以上 C: 1回以上 D: できなかった	学校研究の柱の教科でもあり、一定の成果が見られた。	B		・学校研究をさらに深め、指標や基準のレベルアップを図り、考える力の具体的な形を共通理解したい。
③豊かな心の育成	(集団生活力の育成) 集団生活に必要なきまりや約束を守る指導を適切に行う。	【満足度指標】 明るく進んで元気にあいさつをし、きまりや約束を守って生活できた。	進んであいさつできた児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	概ね達成できている。	B	創造性が乏しい子どもが増えていると聞く。学力向上と合わせ、生活指導を含む個別指導の充実をお願いしたい。	・日常の指導と習慣化を継続して、全校的に取り組みたい。
	(思いやりのある子の育成) 自他ともに認め合い、学校に来ることが楽しいと感じる子どもを育てる。	【満足度指標】 学校へ来ることが楽しいと感じる子が8割以上になるように努める。	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	楽しいと感じている児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	全体の達成度は概ね良好である。	B	・楽しいと感じている児童の割合は常に100%を目指していきたい。次年度は基準をあげることを検討したい。
	(たて割り活動による豊かな人間関係づくり) 異年齢集団による活動を通して、学年の枠を越えた人間関係に気づかせ上げる手立を行う。	【満足度指標】 学年に応じた目的で楽しく活動しながら、異学年のよさや様々な見方、考え方があることに気づくことができる。	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	交流の楽しさと良さを感じた児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	1学期調査86%、2学期調査91.3%とほぼ目標を達成できた。	B	・たてわり活動は一部実施内容に改善点が指摘される学年があった。学年に応じた取組方法や児童への周知方法の検討を図り、全校的な取組を徹底したい。
	(学級での豊かな人間関係づくり) 学級活動を計画的に行うと共に、エンカウンター等の活用を図り、人間関係づくりを推進する。	【努力指標】 計画的な学級活動運営やエンカウンター等を取り入れた人間関係づくりに取り組む。	人間関係づくりの取り組みが A: 十分できている B: ほぼできている C: 十分とはいえない D: 不十分である	グループエンカウンターは学活等を含めて全学年で取り組むことが出来た。	B	・人間関係づくりは大切なとりくみなので、今後とも継続して取り組みたい。	
	(道徳教育の充実) すべての教育活動との関連が図られた全体計画・指導計画のもと、道徳の時間を要とした道徳教育を行う。	【成果指標】 指導の内容を工夫した授業を、どの学年も学期に2回以上行う。	内容を工夫した授業を学期に行う。 A: 3回以上行った B: 2回行った C: 1回行った D: できなかった	目標は概ね達成できた。	B	・今後とも道徳の充実に向け、継続的な取組を行いたい。指標・基準の「工夫」について具体的に示すことが次年度の課題としてあげられた。	
④健全な身体力の育成	(たくましい体の育成) 体育科や特別活動での体育的活動を通して、スポーツや体を動かすことの楽しさを知る。	【努力指標】 各体育カードを活用したり校内各種大会に取り組む。	体育カードの活用や校内各種大会に A: 十分に取り組んでいる B: 取り組んでいる C: あまり取り組んでいない D: 取り組んでいない	全学年共通カードを使用することにより、意欲的に取り組む姿が多く見られた。	B	心身のバランスのとれた成長を願っている。「ゲーム」は気をつけて欲しいことを今後とも喚起してほしい。	・技術面の向上に課題が残った。
	(健康教育) 自らの健康に興味や関心を持つ児童の育成に努める。	【努力指標】 自らの健康に興味を持ち健康的な生活を送れるように努めている。	生活習慣が改善された児童が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	目標は概ね達成できた。	B	・2回目調査は冬場ということもあり、1時間以上ゲームをする児童が30%となった。次年度にはこの点の改善が必要である。指標・基準の評価方法を「受診率」で評価できるように検討する。	
⑤家庭・地域との連携	(基本的生活の確立) 家庭と連携して早起き・朝ごはん運動を推進する。	【努力指標】 早起き・早起き・朝ごはんが実行できている子を8割以上にする。	早起き・早起き・朝ごはんが実行できている子を8割以上にする。 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	達成内容は ・早起き80%以上 ・早起き80% ・朝ごはん90% 一定の成果が見られる。	B	近年ますます、保護者・学校・地域、そして保育所との連携が叫ばれている。連携は課題の投げかけと意識付けが大切である。保護者への意識付けの意味からも、学校からの発信と周知は今後ともさらに充実したものにしてもらいたい。	・高学年では10時以降に就寝する児童が若干見られる。低学年と高学年を分けて就寝時間を見直すことが必要である。
	(家庭学習の習慣化) マニュアル等を作成し家庭学習の定着を図る。	【成果指標】 宿題等、家庭で毎日欠かさず学習するように努める。	毎日取り組んでいる子の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	宿題中心の家庭学習は定着してきた。	B	・自主的な勉強はまだ不十分。	
	(信頼される学校づくり) 学校での教育活動をより多く知ってもらうように学校公開などの取組をする。	【成果指標】 学校の教育活動を知ってもらう取組を4種類以上行う。	学校の教育活動を知ってもらう取組を4種類以上行った。 A: 5種類以上行った B: 4種類行った C: 3種類行った D: 2種類以下しか行えなかった	学校公開、表現会、授業参観、校長だより、PTA広報、学級だよりなど取り組むことが出来た。	A	・WEBページ(ホームページ)の定期的更新	
	(ふるさとから学ぶ) 総合的な学習、体験学習をおしてふるさとの自然・文化・人々に学び、ふるさとに愛着を持つ子を育てる。	【努力指標】 ふるさとや地域の素材を学習材にした体験活動などを学年も2回以上行う。	ふるさとから学ぶ体験活動を A: 3回以上行った B: 2回行った C: 1回行った D: できなかった	生活科・総合的な学習の時間に実施されている。	B	・地域講師の招聘や訪問など、内容を検討する。	

